

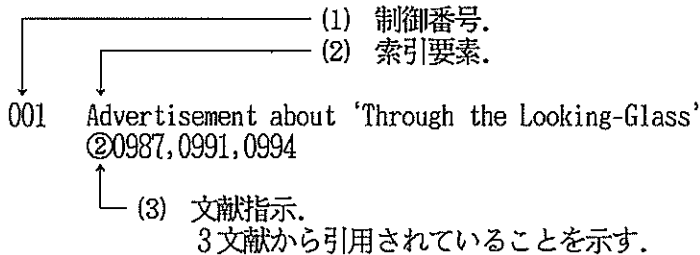
' : テクストの省略部分の存在が認められることを示す。

" : テクストの改変部分の存在が認められることを示す。

② 被引用言及関係指示。

書誌データリストの4桁の制御番号により対応する文献を指示する。

<C.L.D. 著作索引記載例>



3. 一般索引。

配列はABC順及びアイウエオ順。各データは以下の2項目から成る。なお、固有名詞に複数の表現形が存在する場合は「⇒」のもとに相互参照を付した。

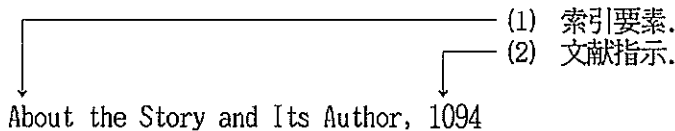
(1) 索引要素。

索引対象のデータ。

(2) 文献指示。

書誌データリストの4桁の制御番号により対応する文献を指示する。

<一般索引記載例>



書誌データの記述に用いる漢字は JIS C 6226-1978 (情報交換用漢字符号系) の第1水準漢字集合を基本とし、異体字関係にある漢字については字体の統一を図っている。

本書作成にあたっては、まず二次資料(実データ採取分の簡略リスト後掲)を使用し、調査対象文献の疑似関係構造データを設定した後、当該データを基礎とする単位データごとの現物調査を実施し、同時に関係構造分析によるデータ追加・修正・統合作業を実行していく手法を用いた。調査に際して御協力頂いた大阪府立中之島図書館・国立国会図書館・三康文化研究所付属三康図書館・筑波大学附属図書館・帝塚山学院大学附属図書館・東京都立杉並高等学校・東京都立中央図書館・東京都立日比谷図書館・図書館情報大学附属図書館・日本近代文学館の諸機関ならびに職員の皆様に、深く感謝申し上げます。また、*ælis*, AALA そして *Elveston Gazette* 同人諸氏からは、作業全期間を通しての貴重な御支援・御指導を頂戴している。ほかにも多くの方々から、個人的に、様々な側面からの御助力を頂いている。そのすべての方々、この場を借りて、心より御礼申し上げます。そして、「関係構造体としての書誌データリスト」の可能性を最初に示唆してくれた稲村吉紀君に、本書を献げたい。過ぎし日の君の言葉の思い出のために。